

優良賞

私の「お母さん」

グエン ティ ハイ
NGUYEN THI HANH

一年が経過して、また桜が咲いている。日に日に暖かくなっていますが、どうしてなのか、私はなぜか心が寂しいくらい非常に寒いです。日本語検定3級を合格しました。しかし、なぜか涙が出てしまっている。

「お母さん」とのお別れは突然だった。レストランで楽しく話をしていた時、お母さんは急に私の顔を見つめて寂しい声で言った。「ハインさん、お正月になったら私は会社を辞めることになったのよ」私は思わず驚いて「本当ですか?」と問い返した。お母さんはただうなずいて、寂しげな目で私をじっと見ていた。私は何も言えず、テーブルに顔を乗せて泣いた。日本に来てから寂しいことも楽しいことも話せたお母さん。私にいつも日本語を教えてくれたお母さんともうすぐお別れなのだ

誰でも日本に来て不安なことはまず言葉だ。日本へ来たすぐの頃、私の日本語はまだ下手だった会社に配属されてから2ヶ月が過ぎた頃、木ドタさんと話した時、彼女が私のベトナムのお母さんと同じ年だということが分かった。彼女は私にたくさん質問をしてくれた。「名前は?」「何歳?」「日本語はどれ位習ったの?」私が答えると、「日本語を良く覚えたね!」とほめてくれた。

その日をきっかけに、私は彼女ともっと話したくなった。彼女はまるで私の心が分かるようだった。彼女は私の日本語が上手になるよう

に、時間をとって話してくれるようになった。日本語での会話はあまり分らないかったから、私は手紙を書くようになった。おしゃべりをする人を見つけられて楽しかった。私が手紙に「ベトナムを離れて寂しい」といつも書いていたら、彼女からの返事の中に「寂しと書いていたらどんどん寂しくなるはずだよ」という言葉があった。いつからか私は彼女のことを「お母さん」と呼んでいた。お母さんいつも私の日本語の間違いを直してくれた。お母さんのおかげで、前よりもっと日本語を勉強したくなった。

お母さんがいなくなってしばらく経った後、会社の経営状況は更に悪くなり、私も別の会社に移ることになった。そのことが分かった時、ベトナムに帰国したいという気持ちがふっと出てきた。ベトナムにいるお母さんは16年間病気で具合が悪い。きっと父さんにはすごく怒られるだろうけど、ベトナムにいた時母に代わってずっと面倒を見てくれた。最愛のお姉さんのもとの帰りたくなった。

しかし、その時思い出したのは日本のお母さんのことだった。今まで頑張ってきた1年が無駄になると思った。そして、お母さんが最後にくれた手紙を思い出した。「どこにいるにしても、どんな状況になっても頑張ってください。自信をもってねハインさん!」

今日、2009年3月6日、私は新しい会社へ移動してきました。今は1年前の新しい気持ちに戻っています。涙をふきたくなることもあるでしょうが、日本のお母さんの信頼に応えるためにも、美しい日本の国にいる時間を貴重にしたいと思います。

区	分	技能実習生
国	籍	ベトナム
職	種	金属プレス加工
受入れ企業		齋藤製罐株式会社
受入れ団体		富士経営交流協同組合 海外事業部